

1. 評価報告概要表

作成日 平成 20年 8月 7日

【評価実施概要】

事業所番号	1090200120
法人名	特定非営利活動法人三山の家
事業所名	グループホームみどりの
所在地	高崎市井野町377番地3 (電話) 027-361-6464

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成20年7月30日

【情報提供票より】(20年 7月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 8月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人	常勤換算 6.45人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日 950円		

(4) 利用者の概要(7月 10日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	5名	要介護2	1名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	1名		
年齢	平均 85.1歳	最低	78歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 松沢会 希望館病院
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

高崎市の郊外、家並みが続き所々に田畑が残る井野町にある。木造の平屋建てのホームで、各居室やホール等は広く、ゆったりとしたスペースとなっている。運動することで失禁やむくみの予防となり、声を出すことで脳への刺激から認知症の進行予防の効果を期待し、軽体操、読み上げ、にぎにぎ体操等に取り組んでいる。また入居者は、習字や塗り絵をし、民謡を歌い、手先を使う工作や花を育てる等、一人ひとりが思い思いに生活できるよう、職員が熱意を持って支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解している。自己評価を全員で取り組み、ケアの振り返りや勉強会の機会となっている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、事業所の状況報告を行い、災害時の地域の協力依頼、行事や慰問の希望等の意見を聞き、運営に活かしたいと考えている。今回、初めての外部評価であり、自己評価及び外部評価については報告を行う予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の訪問の折には、意見や要望等を聴くようにしている。また、意見箱を設置している。ホーム、また市・国民健康保険団体連合会の苦情窓口を書類に明示し、入居時に家族等に説明している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入しているが地域の行事が少ないため、参加の機会はないが参加する意思を伝えている。浜川南京玉すだれの会や地域の歌や踊りの会の訪問があったり、近隣の方がおすそ分けを持って来てくれたり、立ち寄りしている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、のんびり、おだやかに」を理念として謳い、自発性の拡大を目指している。地域密着型サービスとしての地域との関係性を重視した言葉が表されていない。	○	地域密着型サービスの役割を考えて、今までの理念の中に地域との関連性を重視した内容の言葉を盛り込み、職員全員で理念の見直しに取り組むことを期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホールに掲示され、日々の生活がゆっくりとした時間が流れるように理念の実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入しているが地域の行事が少なく、参加の機会はない。浜川南京玉すだれの会や地域の歌や踊りの会の訪問があったり、近隣の方がおすそ分けを持って来てくれたり、立ち寄りしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	初めての外部評価である。運営者、管理者、職員は、評価の意義を理解している。自己評価を全職員で取り組み、ケアの振り返りや勉強会の機会となっている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催している。事業所の状況報告を行い、災害についてや感染予防等について話し合い、意見を出席者から出して頂けるように働きかけを行っている。今回、初めての外部評価であり、自己評価及び外部評価については報告を行う予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故や問題があると、市の担当者に報告・相談をし、アドバイスをもらう等、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の暮らしぶりは、広報誌「みどりの」に掲載し家族に配布している。健康に変化があった場合は、その都度電話で報告している。金銭管理は、ホームで立て替え、家族が支払いに来所した時に、レシート等を提示して報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム、また市・国民健康保険団体連合会の苦情窓口を書類に明示し、入居時に家族等に説明している。面会時には意見を引き出せるようコミュニケーションをとるとともに、意見箱も設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、離職には欠員がでないように早めに対応し引き継ぎを行い、また入居者には不安にならないように事後報告で説明している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員に応じて認知症の基礎研修、管理者研修、新人研修等の法人外の研修を交代で受講させている。また、日頃のケアのなかで管理者はもとより職員同志でもアドバイスをを行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県地域密着型サービス連絡協議会に加入し、ネットワーク作りを始めている。他ホームに見学に行き、取り組み等を参考にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学において頂き、ホームの雰囲気を知ってもらうようにし、数日間昼間だけホームを体験して頂いている。また入居者の自宅に運営者や管理者が訪問し、習慣や好み等の生活の仕方の情報を得ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	折り紙で一緒に作品作りをしたり、時には入居者が「庭先のきゅうりをぬか漬にしておくよ。」とやってくれたりしている。職員の気持ちが減入っている時などには、入居者から言葉をかけられ元気づけられる等支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ、会話を通して思いの把握に努めている。時には近くの公園に行き、散歩をしながら気持ちを聞く等している。困難な場合は、家族から聞いている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族が訪問の際に家族の希望を聞き、職員から情報を得て話し合い、ケアマネジャーがまとめ介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月及び6ヶ月の期間で介護計画を立てている。3ヶ月毎にモニタリングを行なっている。心身の状態に変化があった場合は随時計画の見直しをするが、新たな計画書を作っていない。	○	心身の状態の変化がなく安定している入居者の場合であっても、月に一度は新鮮な目で本人や家族の意向を確認し、ケア関係者からの最新の情報やアイデアを集めるなどをして見直しをして頂きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、かかりつけ医へ同伴受診をし、受診後は家族に報告している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。運営者の友人がいる希望館病院が提携医となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。また、歯科医師が訪問診療を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療行為が必要な重度化した場合は、入院等による医療対応としている。ホームでの終末期ケアの対応は、本人の希望を尊重し、家族やかかりつけ医と相談し方針を決定している。しかし、早い段階から定期的に話し合われていない。	○	終末期のあり方について、早い段階から本人、家族やかかりつけ医と相談し、状況の変化のたびに繰り返し話し合いをし、方針の共有を図って頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳を大切に丁寧な言葉かけに努めている。場合によっては、フルネームで記載しない等個人情報の取り扱いに留意し、事務室で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、散歩や活動には参加の声かけを行い、無理強いせず一人ひとりの気持ちに沿って支援している。訪問美容も行っているが、希望により家族と一緒にかかりつけの美容院に出かけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と一緒に下ごしらえをしたり、おにぎりをつくったり、食器やトレイを洗ったり拭いたり等、食事の準備や後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回、一日おきの入浴日となっている。公平さに配慮して入浴の順番表を作成し支援している。現在は入浴を嫌がる人はいないが、嫌がる場合には清拭等を行い、清潔の保持に努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カーテンの開け閉め、花や野菜の水遣り、食事の準備や後片付け等を、職員と一緒にそれぞれの力を活かしながら行っている。また日記を書く、習字、塗り絵、読書を楽しむなどの支援をしている。また、全員で体操したり、誕生会や歓迎会を行うなど、楽しみ事等の支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や食材購入の買い物に職員と一緒に出かけたり、ホームの玄関先で外を眺めながら夕涼みをしている。また、外食や季節によって近くの公園に桜や菖蒲を見に出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関の鍵はかけておらず職員は見守りを徹底して、自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成し、消防署の立会いの下、避難訓練をしている。その折に、消火器の使い方、AEDの扱い方、救急法等の講習を受けている。耐震のためホームの地盤強化を行い、スプリンクラー、火災報知器を設置している。また乾パンと水を備蓄している。ホーム前の隣家には災害時の協力依頼をし、運営推進会議でも災害協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員は、入居者の好みを聞き1500～1600キロカロリーの献立を作成している。体調等により、飲みこみ易いように刻み食や粥食を提供している。残食や水分摂取量をチェックし、情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間兼ホールは広く、中央に木製の食卓用テーブル3卓と椅子、大きなソファの前には大きめのテレビが置かれている。キッチンホール横にあり、整理整頓されて清潔感がある。入居者が育てた白百合が生けられ、ご飯の炊ける匂いがする等生活観や季節感を取り入れる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く、使い慣れた時計、テレビ、箆笥、応接用の椅子等が持ち込まれ、カレンダー、家族の写真、自分の作品等が壁に架けられ、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		